

おつかれ さまでした!

よろしく お願いします

古俣博之前副町長



この度、任期満了により12年間（教育長・4年間、副町長・8年間）の役場人生に終止符を打つことになりました。これも偏に町民の皆様からの叱咤激励のお陰であり、心よりお礼と感謝を申し上げます。

ふり返る時、小中学校の統廃合、財政健全化、バイオマス事業の廃止、コロナ感染症対応、病院・きたこぶし問題等々、本当にいろいろな課題と向き合う日々であったように思います。その度ごとに至極当然なことですが町民の皆様への思いや考え等を如何に吸い上げ、政策議論の中心に据えるのかとあれこれと取り組まれましたが、満足いただけないこともあり、今さらながら申し訳なく思っています。

今後は一町民として皆様とともに、大塩町長が掲げる「共感ひろがる信頼のまちづくり」の応援団として過ごしていきたいと思っています。ほんとうにお世話になりました。

皆様の今後ますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。

大黒克己副町長

大塩英男町長が掲げる「共感ひろがる信頼のまちづくり」の実現に向けて、町民、議員、職員に分け隔てなく「絶えず誠実でありたい」と決意を語る新副町長に、抱負などを聞きました。（広報編集室）



今のお気持ちはどうですか。

「入庁はちょうど40年前です。当時は将来が楽しみと思えた白老も、全国同様、次第に人口減や景気の悪化が始まり、本町の財政状況も徐々に苦しくなりました。皆さんの努力によるその後の財政再建で危機的状況からようやく回復の兆しを見せ、大塩新町長の下、新たなスタートラインに立った気持ちです。そんな中で、あたたかみを感じたいです。」

の引き締まる思いをしています」

町長のサポート役としては、

「将来を見据え持続可能な新しい白老実現をサポートしたい。『町民の豊かな生活』には、大塩町長公約の着実な実行が必要。まだ全体を見渡してはいないので具体的に言えないが、そのために何をすればいいかを職員と一緒に考えていきたい」

『誠実でありたい』とは。

「財政の立て直しや道道の開通、企業誘致など職員生活を通して、いろいろな人との出会いやみんなが苦勞した達成感など楽しかった思い出があります。それらから得た信念でしょうね。大塩町長が掲げる『共感ひろがる 信頼のまちづくり』が一番重要と思っています。よりよい政策や手段を語り合うため、副町長室に複数で気軽にミーティングを行っています。」

竹田敏雄前副町長



令和元年12月に副町長に就任し、町民の皆さまの力を借り、ご指摘をいただきながら町政運営に努めてきました。4年の間には、さまざまな出来事、課題がありました。就任後間もなく新型コロナウイルス感染症の流行拡大となり、多くの町民と対話をし、声に耳を傾け町政運営を行っていきたく思いましたが、思い通りにはいきませんでした。しかし、町民の生命・財産を守り、安全・安心な町民生活を確保するため、職員一丸となり対策に取り組まれました。

また、令和2年に開設したウポポイもコロナ禍の影響を受けましたが、来館者も徐々に回復傾向にありますので、町内観光の振興に努め活力のあるまちづくりを進める必要があります。少子高齢化・人口減少・公共施設の老朽化対応など皆さんの課題に、町長を中心に新たな体制で取り組むことになりましたが、誰もが幸せを感じることができると目指し、町民の皆さまの協力と理解をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

テイニングなどができる大きなテールブル（だ円）も置きました。いいでしょう（笑）。まちの課題解決を組織力とコミュニケーション、そしてあいさつで乗り切りたいです」

町民の皆さんへメッセージを。

「今一歩前に進むことができるよう職員の背中を押す仕事をしますので、信頼、期待にこたえられよう見守ってください」

大黒克己（おおくろ・かつみ）昭和58年入庁。企画、財政畑が長く平成21年課長職、同24年部長職に。前職は会計室長。立教大卒。苦小牧市出身。63歳。